移動の目的地が提供するサービスと連携したAIオンデマンド交通の運行による交通不便地域の解消

Profile

会社名（法人等名）、地方公共団体名等	双日株式会社
所属部署名　氏名	自動車本部自動車第一部第二課　齊藤 祥午
出身地	神奈川県
専門分野	MaaS, AI デマンド交通 , 行政向け脱炭素コンサルタント , EV 車の取り扱い , カーシェア等
所属部署での業務内容	1. デマンド交通システムの管理 , 新規エリア開拓 2. MaaS 事業の推進 3. 脱炭素事業含めた自治体連携 4. EV 車両 (自家用車 , 商用車) の導入支援など
現職に至るまでの経歴	入社時は鉄道関連部署に配属され、トレーディング事業や開発途上国での鉄道建設プロジェクトなど円借款事業に携わり、海外インフラ案件に従事。 2019 年にインド・デリーへ現地赴任し、帰国後に上記プロジェクトマネジメントと鉄道業界目線での MaaS 事業を兼務。 その後、現職としてモビリティ領域における MaaS 他業務を担当。
担当として関わるきっかけ	双日グループは川崎市と産業廃棄物のリサイクル事業で協定を結んでおり、そこでの取り組みを担当者として知ったことをきっかけに川崎市役所の交通部局の方へデマンド交通サービスのご紹介をさせて頂きました。 川崎市としても交通課題解消に向けた方針を打ち出しており、その中のメニューとして AI 交通システムを活用したデマンドモビリティの導入検討に触れられていたことから、本件の本格的な導入検討を行い、当事業の申請を行いました。
プロジェクトに関わった中で印象的な事例	【官民の役割分担と適切な” 走りながら考える精神”】 本プロジェクトにおける最大のポイントは官民各々の役割分担をそれぞれ実行したことだと思案します。川崎市まちづくり局の方々のご協力なしにしてプロジェクト推進は成し得なかったと理解しています。例えば、協議会のメンバー結成や実証期間中の様々な取り組みであるイベント参加やプロスポーツチーム 5 球団との連携は、同市が積極的にファーストコンタクトを行って頂いたことにより、双日は事業者として具体的な取り組み案の協議など円滑に進めることが出来たと思料します。 関東運輸局の方々も、本プロジェクトのアドバイスや許認可関連のご支援等多岐にわたる伴走を行って頂きました。また、事業そのものを進めて行く中で様々なハードル (協議会立上げの意義、停留所設置場所の選定、エリア拡大に向けた取り組み等) はありましたが、” 走りながら考えるマインド” を持つことで、取り組みを加速させて行くことが出来ました。各課題に対して実行する蓋然性を持たしてから実行することは当然大事ではあるものの、実証実験での短期間での進め方にはスピード感が伴わず、適しておりません。各担当者が” 走りながら考える” という同じマインドを持ったことで、TRY したことによる反響で実測する (反響が伴わなければ戻す) という判断軸を共有でき、良い意味で「実証実験」を大いに活用することが出来ました。
自由記入欄	プロジェクトで運行しているデマンド交通の利用方法等について youtube にアップロードしておりますので、是非ご覧下さい。 https://www.youtube.com/watch?v=Zkqs0o0TZtw https://www.youtube.com/watch?v=p74d4jxM4Qw